平成17年度の重点事業の紹介

学力の充実・向上に向けて

●研修講座からの視点●

国語科における読解力の向上

「国語力アップ促進講座」　・読解力向上に視点をおいた小・中学校での国語科における指導の在り方について少人数グループでの研究協議

自ら学び自ら考える力などの「生きる力」の育成

「総合的な学習の時間講座」　・①読解力の向上　②問題解決能力の育成　③学習内容や指導方法を焦点にした３部会での研究協議
・実践成果の事例発表と波及

授業改善を通して「確かな学力」の向上

「授業改善評価研究講座」
－小算、中数・英－
・「子どものための京都式少人数教育」の実践成果の事例発表と波及
・ITECを活用した評価を生かした授業改善

理科への興味・関心、学習意欲の向上

「小学校理科ベーシック講座」（A・C、B区分）
・B区分は各教育局の小学校での出前講座
・A・C区分は新規開講

「小学校理科教育講座」　・問題解決的な学習や発展的な学習の取扱いについて

「小学校理科ものづくり講座」　・理科を応用したおもちゃや児童が興味を示す教具の開発

「中学校理科教育特別講座」　・指導者の育成、興味を高める教材の開発

「授業の達人養成」事業に対応して、希望進路の実現に向けた高い指導力の育成

「高大連携『教科指導』講座」
－数学・英語－
・大学入試センター試験の分析
・国公立大学の入試分析と指導の在り方

実践的な指導力の向上を目指した初任者研修、２年目研修の充実

「初任者研修講座」
・話し方や板書等の基本的指導技術の向上
・学習意欲や読解力を向上させる学習指導の在り方
・コミュニケーション能力向上のための実践的研修

「教職経験２年目研修講座」
・実践的課題を踏まえた指導力の向上
・ITECで講座内容を支援

●ITECの活用●

「学校支援」サイトに掲載

京都夢・未来校等の学力の充実・向上に向けた実践成果の発表
学力の充実・向上に向けた多数のコンテンツを掲載し、今後も拡大の予定です。

●メールマガジンの発刊●

「理科大好きメールマガジン」の発刊　京都府の理科教育情報を配信します。

●研究事業からの視点●

15･16年度研究テーマ　**「評価を生かした授業改善（小学校編）」**
詳しくは、ITECの トップページ → 学校支援 → 全般 → 教育資料一覧

研究員による研究内容　**「確かな学力を育成するための指導の充実」等**
詳しくは、ITECの トップページ → 学校支援 → 全般 → 研究概要（16年度）

17年度研究テーマ　**「学びの基盤としての読解力をはぐくむ研究」**

●小・中学校学力充実事業からの視点●

学力診断テストの実施
学力充実講座の実施

・診断テストの結果分析、資料作成
・個別指導資料（こべつーる）の作成
・学校別成績データ（FD版）の配付
・授業改善の実践発表と研究協議

「学校を支援するセンター」として、さらに進化します

豊かな人間性の育成と健康や体力の向上

●生命を大切にする「心の教育」の充実●

「道徳の時間」を要とした道徳教育の新しい展開

「道徳教育講座」
・評価方法の工夫改善と総合単元的な道徳学習
・模擬授業等の演習による実践的指導力の育成

「教職経験３年目研修講座」
・道徳教育の計画と展開

体験活動や読書活動を通した豊かな情操の育成

「初任者研修講座」
・体験活動を通した生命の尊重

「司書教諭講座」
・「京都府子ども読書推進計画」に基づいた豊かな心を育成する読書活動

「小学校実技実習ベーシック講座」（音楽科、図画工作科、家庭科）
・実技実習を通した健全な心身の発達と豊かな情操の育成

「ＩＴ授業推進特別講座」
・ＩＴ活用と情報モラルの育成

ITECによる「小学校　楽しい授業のひと工夫」の掲載

●今日的な人権教育の推進●

新京都府人権教育・啓発推進計画を受けて

「人権教育講座」
・人権教育指導事例集を活用した指導方法の改善

「校長講座」「教頭講座」
・人権教育の国際的潮流と京都府の取組

「教職経験２、３、５、10、20年期研修講座」
・人権教育の今日的課題とその解決に向けて

●健康や体力の向上による、たくましい人づくり●

学校安全の推進

「健康安全教育講座」
・不審者対策及び少年犯罪の現状と課題
・自動体外除細動器の特性と使用方法

体力つくりの推進

「小学校実技実習ベーシック講座」（体育科）
・健康と体力の向上

ITECによる「体つくり運動」等の「小学校　楽しい授業のひと工夫」の掲載

一人一人のニーズに対応した特別支援教育の充実

●特別支援教育体制の充実●

特別支援教育の推進

「特別支援教育講座」
・特別支援教育コーディネーターの役割と活動
・校内支援体制の構築と校内委員会の活動

特別支援教育コーディネーターの育成

「特別支援教育コーディネーターの養成講座」
「特別支援教育コーディネーター　スキルアップ講座」
・個別の支援計画の作成等で校内外の連絡、調整の役割と校内体制の確立
・各市町や教育局管内の支援体制の整備

Ｋ－ＡＢＣ心理検査

「心理検査実技講座」
・Ｋ－ＡＢＣ心理検査の概要と実施方法

ITECによる情報発信

一人一人の障害の状態等に合わせた教材・教具の紹介

不登校の未然防止と解決に向けて

京都府総合教育センターでは、不登校の未然防止とその解決に向けて、各学校でITEC機能を活用していただきながら、平成17年度の教育相談事業を次のように展開します。

ITEC

教育相談関係の情報発信

ITEC機能を活用した研修

教育相談関係研修講座　― 不登校への対応を重点に講座の体系化をさらに進めます ―

基礎的な知識、技能に関する講座については、指導者養成講座の修了者の皆さんにも御活躍いただいて実施し、専門研修講座はさらに専門性の高い内容で実施します。
学校教育相談の研修講座の詳細は、Ｐ.14をご覧ください。

府民開放講座　― 府民の皆さんとともに子どもの「こころ」について考えます ―

「子どものこころ　セミナーⅠ」　平成17年６月11日（土）13:00～16:00
講師　京都大学大学院　教授　河合　俊雄　先生

学校・地域支援と研究成果の波及

京都府広域スクーリング・サポート・センター（ＳＳＣ）
― 指定地域の不登校対策を支援し、成果を波及させます ―

不登校児童生徒の早期発見・早期対応をはじめ、より一層きめ細かな不登校への支援を行い、各地域の不登校対策の中核的機能をもつのがスクーリング・サポート・センター（ＳＳＣ）です。
今年度に引き続き、平成17年度も次の８つの市町が指定され、教育支援センターを中心に「地域ＳＳＣ」として地域ぐるみのネットワークの整備をしています。

長岡京市　八幡市　城陽市　木津町　亀岡市　福知山市　舞鶴市　宮津市

当センターは「広域ＳＳＣ」として、８つの「地域ＳＳＣ」の機能をサポートするため、地域ＳＳＣの相談員、指導員及び学校教育相談担当者（学校教育相談実技指導者養成特別講座修了者等）に御参加いただき、大学教授等を招いて**研修会を開催**したり、地域ＳＳＣの相談事例に係る**コンサルテーションを実施**します。

研修会やコンサルテーションを通して、教育支援センターと学校教育相談担当者との連携が進むよう、学校支援、地域支援を進め、「不登校の未然防止と解決」についての研究成果をITECを通じて府内のすべての地域に広めていきます。

派遣

研究主事等派遣事業　― 市町村、府立学校の研修会を直接的に支援します ―

市町村教育委員会主催または府立学校主催の研修会に研究主事等を活用いただき、要請があれば各地域の研修会の充実を支援します。
（例）・事例検討会　　・教育相談指導者研修会　等

「学校教育相談の力量の向上」を目指して学校を支援します。
― 関係行政機関と連携・協働して、不登校の未然防止と解決を図ります ―
・指導者養成講座の修了者の皆さんにも御活躍いただいて、府全体の教育相談研修の裾野を広げることができるよう、学校教育相談の機能と体制を支援します。

「教育相談」を不登校児童生徒支援の基盤に据えて取り組みます。
― 電話・来所・巡回教育相談、コンサルテーションなど様々な形態で心理面接を行います ―
・高度に専門的な教育相談を実施し、府民の方々、教職員のニーズに応えます。
・大学等の研究機関や京都府臨床心理士会、スクールカウンセラーと密に連携します。

不登校③「不登校への対応」(最終回)

不登校の子どもへの家庭訪問 ～「親のこころ」に会いに行く～

教師から寄せられる相談には、「親が子どもに過干渉で、口うるさく言い過ぎ。」「子どものことを放ったらかしで親は自分のことしか考えていない。」「親が自分のイライラを子どもにぶつけるから･･･。」など、不登校の子どもの親の養育態度や家庭生活の在り方に対する非難や不満が含まれることがあります。
今回は不登校の子どもへの家庭訪問での、親との面談について考えてみましょう。

周りからみていると、親がもっとこうしてあげた方がいいとか、こんなことも親ならできるのにと思えることがあります。懸命に教師が取り組んでいればいるほど､「子どものためにこれだけ自分がやっているのに･･･」と親に対する不満があって当然と言えるでしょう。

「○○のようにしてあげてください」「もっと△△というふうにしていきましょう」と親に学校の方針を伝えたり、アドバイスしながら一緒にやっていけるうちは、それが子どもの成長に役立ち、学校復帰に向けて効果的に働いているのかもしれません。けれども、いつまでもアドバイスのとおりに親の養育態度や家庭生活の在り方が変化し続けることはありません。もし親ができそうにないアドバイスを一方的に続けたとすると、多くの場合、親は「先生はちっともわかってくれていない」と不満を感じるようになります。そうなると互いに不信感が高まり、親にも教師にも家庭訪問の場がストレスを生む要因となってしまいます。

親に対する非難や不満などの感情が自分の中に起こってきたり、何かアドバイスがしたくなるとすれば、それはおそらく子どもの側に立って親の話を聞いているか、自分の教育観や人生観と照らして親の話を聞いているからでしょう。親と会うときには、親の側から「家庭訪問」を眺めてみることが大事です。親は自分の言葉をどのように受け止めたのだろうか、この面談が親自身のためになったのだろうか･･･と、親の側から眺めるのです。
たいてい、親がどのように感じていて、これからどのようにしたいと思っているかなどということは、こちらにはわからないので、だからこそ親の言葉を「聴く」ということが必要になるのです。

親に会いに行くときに、最も大事なことは「親、その人自身と会う」ということです。子どもとの関わりに悩みをもっている「親のこころ」に会いにいくということが必要です。その悩みはすぐには口にしないことかもしれないし、できないのかもしれませんが、何度か足を運んで親の語りにじっくりと耳を傾けていると、親自身のことがじわじわと伝わってくるものです。

子どもが登校したくても登校できないとなると、それは親の養育に間違いや足りなさがあったのだろうと周囲の人から見られ、親自身もとても辛く苦しいものです。そのため、時には登校できない原因を教師のせいだと責めたてたり、友達のせいにしたりというように他者に向けられることも起こってきます。
確かに周りの関わりに明らかな非があるなど、時には原因が他者にあることもありますが、多くの場合、そのようにして、責任を転嫁しないと親自身が安定を得られないことが多いからです。

仮に子どもへの関わり方が多少ずれていたり間違っていたとしても、不満や辛さ、苦しさでいっぱいの「親のこころ」に添い続けていくと、親としてその時々に子どもに対してできることを一生懸命にやってこられたんだな･･･ということが、こちらにだんだんと伝わってくるものです。親自身の小さい頃のことや、自分の両親との関わりなどが親の口から内省的に語られ、愚痴もこぼせるようになると、これまでこういうふうに子育てしないではいられなかったんだろうな･･･と親の子育ての在り方にも納得ができるようになります。こちらが納得できるほど親自身のことが伝わってくるようになると、たいていの親は変化してきます。それは親が自分の不安や悩みに対して楽に向き合えるようになり、子育てをやり直してみようとする元気と自信を回復していくからです。
そうなると子どもも確実に変化してくるものです。

もちろん、担任一人で親の面談まですべて抱え込むということは、時間的にも心理的にも困難ですから、学校教育相談の体制を整えて、チームで「親のこころと会い続ける」ということが大切です。

「教育相談シリーズ」は、ITECにも掲載します。